

岩屋緑地のきのこ図鑑

NO. 25 ハナガサイグチ



イグチ科キイロイグチ属、和名：花笠猪口。夏～秋にかけて、針葉樹林や。広葉樹林の樹下に単生あるいは群生する。全体が鮮やかなオレンジ色をした小型～中型のイグチ科のキノコであり、傘は直径 2～5 cm、初めはまんじゅう形で後に山形からほぼ平らに開く。傘表面は多少繊維状で毛羽立ちがあり、橙黄色～鮮黄色。やや粉質で、ときに細かくひび割れることもある。管孔は初め淡黄色で老成により徐々に汚緑色となる。管孔と柄は直生～湾生。孔口は小型～中型で、橙黄色に縁取られる。柄は長さ 3～5 cm で、下方に向かってやや太まり、表面は縦長の網目模様で覆われる。肉は黄白色で、傷つけても変色しない。食毒不明。最近岩屋緑地「新さくら広場」の北西ブロック、西側のアベマキ・コナラ林内で見られた。

ニュース もう1本

飯村小 4 年 2 組特別授業支援

令和 5 年 9 月 19 日（火）午後、飯村小学校 4 年 2 組で特別授業が行われ、会から西川と森の 2 名が参加した。この特別授業



は 6 月の「岩屋緑地を学ぶ会」や「オリエンテーリング」などの一連の岩屋緑地について学ぶ総合学習の一つ。2 組担任の授業の様子を披露するもの。子供たちは 6 グループに分かれ、岩屋緑地について調べたことをホワイトボードに書いて発表し、最後に会への質問を 1 つずつする。出た質問は 防空壕はなぜ残っているのか？ 休憩所はどうしてあるのか？ 日曜日だけ活動しているのか？ 給料はいくら貰っているのか？ 会員が一番多かったときは何人いたか？ 会員 70 人もいるのにオリエンテーリングには 70 人いなかったのはどうして？ 6 グループの発表が終わったら、森が質問に答えた。その一部は、ボランティアは自分から進んで人のため社会のためにすることで、給料は貰わない。会員が高齢化し、参加人数も減って来て、近い将来「岩屋緑地に親しむ会」の活動が出来なくなることが心配されるなど。これを受けて西川が「岩屋緑地に親しむ会」や「岩屋緑地」が無くなったらどうなるかとみんなに問い掛ける。みんなが意見を述べる。その後みんなは自分ならどうするかを考えた。しかし、その発表は時間が来て聞けなかったのは残念だった。 【写真：4 年 2 組の特別授業風景】

二川宿灯籠祭りに参加して

中神憲一郎

聞いて
聞いて



新組織での第 1 回灯籠祭りの会議への案内があり、出席して感じたことは、若い方々のしっかりとした説明と応答で、この方達なら出来ると思いました。先ず「1 回目を実行し成功させる事」これに意欲を強く感じました。灯籠祭り当日、私達「岩屋緑地に親しむ会」も本陣内へいろいろな灯籠を飾りました。6 時頃から外の広場では桜丘高校の「和太鼓クラブ」の演奏が始まりました。素晴らしかったです。これを機に広場がいっぱいになりました。夕日も落ち、道に並べた小学生の作った灯籠がとても綺麗、思い思いの絵と文字が入り子供たちの個性が出ていました。小学生がお母さんと一緒に自分の作った灯籠を見て喜ぶ姿もほのぼのとしたものでした。私は 8 時頃から他の灯籠の灯が消えてないか巡回しましたが、幸い風も無かって良かったです。「灯籠祭り」も午後 9 時となり終わりの作業が始まりました。各担当が持ち場で撤去作業を始め、速やかに決めた所に集め「明日回収」と「即片付け」に分け動きが早かったです。私達の「灯籠」も電球とコード等を分類しヶ所に集め、「明日回収」出来るようにしました。今回の新組織の「灯籠祭り」は大成功だったと思いました。【写真：西川収示さん提供】

「半年ぶりのご無沙汰」いつか聞いたことのあるようなせりふ。▼5月の総会で長らく懸案となっていた役員若返りが図られ、新顔が4名、書記が2名体制となり引継ぎへの歩みが始まった。過去の経験重視の考え方に新風が吹き込まれることが期待される▼2面に新役員さんそれぞれに執筆をお願いし紹介とさせて頂いた。皆さんからのような意気込みが聞けるか楽しみだ▼やはり総会で会報発行が年4回から2回に変わりました。この号から適用された半年ぶりの発行となった。それだけニュース性が失われるが半期ごとの報告とご理解頂きたい▼4面に「ニュースもう1本」と聞いて聞いて欄を設け、投稿をお願いした。快く引き受けて頂いたこと感謝です。ありがとう。(Y・M)

編集後記